

UNHCR実施事業：新規プロジェクト開始式典

2018年4月5日、日本の支援を受けて、シリア難民のためのザアタリ難民キャンプ及びアズラック難民キャンプ内でUNHCRが実施するコミュニティセンターの運営を目的とした新規プロジェクト（370万ドル）の開始式典が開催され、柳大使、セバーレUNHCRヨルダン事務所代表、小林JICA事務局長、シリア難民支援局代表が出席しました。また、柳大使は、同式典前にコミュニティセンター内にある女性（11～17歳）課外教育施設（TIGER：Those Inspiring Girls Enjoy Reading）を視察し、指導員（全てシリア難民女性）の説明を受けた他、シリア難民が描いた絵画を集めたギャラリーを視察しました。

日本は、緊急人道支援に加え、難民の自立や受入国の経済発展を支える開発支援を並行して進める「人道と開発の連携」アプローチを推進しており、本プロジェクトにおいてもコミュニティセンターにおけるシリア難民に対する社会心理サポートを目的とした活動だけでなく、シリア難民の自立及び難民キャンプ外での雇用を支援することを目的とした縫製技術等の職業訓練が実施されます。

開始式典では、セバーレUNHCR代表からは、日本の継続的な支援に対する感謝の意が表明されると共に、UNHCRはこれまでにJICAと連携してシリア難民に対する電力分野での人材育成支援を実施した経験を有しており、シリア難民の自立支援を目的とした本プロジェクトにおいても、就労支援分野に強みを持つJICAとの連携を強化していきたいとの発言がありました。

柳大使からは、ヨルダンが大量のシリア難民を受け入れていること、及びUNHCRのヨルダンでの活動を評価しており、今年1750万ドルをヨルダンで活動する国際機関に拠出することとしたが、その内370万ドルをUNHCRに拠出していると述べると共に、引き続きシリア難民を支援していきたいと述べました。

ザアタリ難民キャンプでの活動を支援するドナー
国の国旗が掲載された看板前での記念撮影



コミュニティセンターの視察の様子



シリア難民女性から柳大使への記念品の贈呈



式典での柳大使による挨拶

